

第1学年 国語科学習指導案

日 時：平成30年11月30日（金）

場 所：浜田市立国府小学校 1年2組教室

指導者：道中 汐梨

- 1 単元名 チロの好きなところを、手紙で伝えよう。
主教材「おとうとねずみ チロ」 森山 京 文（東京書籍 1年下）
副教材「おとうとねずみチロとあそぼ」（講談社）
「おとうとねずみチロはげんき」（講談社）
「おとうとねずみチロのはなし」（講談社）

- 2 学 級 雲城小学校 1年 男子10名 女子10名 計20名

- 3 単元について

【つきたい力】

- 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。
 - ・チロがしたことを思い浮かべ、そのときの様子や気持ちを想像しながら読む。
- 物語を読んで感じたことや考えたこと、気づいたことを伝え合うことができる。
 - ・自分の考えを、ペアやグループ、全体の場で伝える。

【単元で取り上げる指導事項】

- Ｃ読むこと（1） ウ 場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと

【教材の特質】

本教材は、おばあちゃんからのチョッキを楽しみに待つ弟ねずみチロの行動や気持ちを中心に描かれた物語である。時や場所の変化による場面の展開がわかりやすく、チロの行動や会話には気持ちの変化が素直に表れている。児童は、幼く素直なチロの気持ちに共感しやすく、自分の思いや考えをもちやすい。自分の生活と合わせながら感想をもつことができる教材である。この話は、副教材「おとうとねずみチロのはなし」で「しましま」という題名で描かれている。本指導案では「しましま」と表記する。

副教材として、同じ作者の作品「おとうとねずみチロとあそぼ」「おとうとねずみチロはげんき」「おとうとねずみチロのはなし」の中から5話を使う。これらも同様に、幼く素直なチロの気持ちに共感しやすい教材である。

【本単元にかかわる子どもの実態】

<個人情報保護のため省略>

4 研究とのかかわり

(1) 児童が読みたくなるような課題の設定【考えをもつ】

児童の初発の感想から出てきたこの物語の好きなどころ、とくに、主人公であるチロの好きなどころに焦点をあてて各時間の学習課題を設定する。児童の感想から課題を設定することで、児童にとって考えやすい課題となり、主体的に活動できると考える。

また、第三次では、同じ登場人物の物語を「重ね読み・比べ読み」する。チロの具体的な様子がイメージしやすい5話を用いる。「しましま」のお話と同じところ、似ているところ、違うところについて、「しましま」と比べながら読み進めていきたい。チロの表情や口調、様子などを具体的にイメージすることで、チロの人物像に迫っていく。そして、自分の考えの理由や根拠を交流しながら、本単元のねらいである場面の様子や登場人物の気持ちを想像することにつなげていきたい。

(2) 相手意識や目的意識をもつような話し合い活動の場の設定【高め合う】

友達と話し合うことで、自分の考えをもつこと、自分と友達の考えとの違いに気付き、考えを広げることを目的とし、学習を進めていく。その際、学習中に子どもたちから出てきた反応の言葉「ことばのたからもの」を意識し、友達の意見に対して反応することを大切にしていきたい。

本時では、「しましまのチロと同じところ、違うところ」に焦点をしぼり、話し合う。低学年であるため、話型を示し、自分の考えを明確にもって話し合いができるようにする。それにより、児童が自分と友達との考えの共通点や違いに気付きながら、チロの人物像を想像できるようにしたい。

5 単元の目標と評価基準

○チロの好きなどころを、手紙で伝える。			
国語への 関心・意欲・態度	読む能力		言語についての 知識・理解・技能
チロが登場する物語を読み、チロの好きなどころを見つけようとしている。	チロがしたことを思い浮かべ、そのときの様子や気持ちを想像しながら読んでいる。	チロが登場する物語を読んで、チロの好きなどころをカードにまとめて伝え合っている。	感想の交流を通して、感想を伝える言葉にはさまざまなものがあることに気付いている。

6 単元の指導計画と評価計画（全13時間）

次	時	目標	主な活動	評価			
				国	読	言	評価規準
1	1	物語に関心をもち、学習の見通しをもつ。	<ul style="list-style-type: none"> 教師の範読を聞いて、感想を伝え合う。 登場人物を確認する。 学習の見通しをもつ。 	○			物語を読むことを楽しみ、関心をもって学習に取り組もうとしている。(ノート, 発言)

2	2 3 4 5 6 7	チロがしたことを思い浮かべ、そのときの様子や気持ちを考えながら読む。	<ul style="list-style-type: none"> ・手紙が届いたとき ・「チロの(チョッキ)はないよ。」と言われたとき ・「いいこと」を思いついたとき ・おばあちゃんにお願いをするとき ・届いたとき 「あ、しましまだ。だあいすき。」 ・「あ、り、が、と、う。」と言ったとき 				<p>チロがしたことを思い浮かべ、そのときの様子や気持ちを考えながら読んでいる。(発言、動作)</p> <p>感想の交流を通して、感想を伝える言葉にはさまざまなものがあることに気付いている。(発言)</p>
	8	チロの好きなどころを伝え合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・チロの好きなどころをカードに抜き出して書く。 ・書いたことを伝え合う。 				<p>物語を読んで、チロの好きなどころをカードにまとめて伝え合っている。(発言、カード)</p> <p>チロの好きなどころを見つけようとしている。(発言、カード)</p>
3	9 10	他の話を、様子や気持ちを考えながら読む。	<ul style="list-style-type: none"> ・教師の範読を聞く。 ・他の話を読む。 				チロがしたことを思い浮かべ、そのときの様子や気持ちを考えながら読んでいる。(発言、動作)
	11	他の話を、「しましま」のチロと比べながら読む。	<ul style="list-style-type: none"> ・他の話を読んで、「しましま」のチロと同じところ、違うところを見つける。 ・カードに書く。 				チロの様子や気持ちを考え、「しましま」と比べながら読んでいる。(発言、カード)
	12 本時	「しましま」のチロと同じところや違うところを伝え合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・他の話を読んで、「しましま」のチロと同じところ、違うところを伝え合う。 				「しましま」のチロと同じところ、違うところについて、叙述をもとに自分の考えをもって伝えている。(発言、カード)
	13	チロの好きなどころについて、チロに手紙を書く。	<ul style="list-style-type: none"> ・チロの好きなどころについて、チロに手紙を書き、紹介する。 				チロの好きなどころについて、自分なりの言葉で手紙を書いている。(手紙)

7 本時の学習（第3次12時間目）

(1) 本時のねらい

「しましま」のチロと似ているところについて、叙述をもとに自分の考えをもって伝えることができる。 【読む能力】

(2) 本時の展開

学習活動	教師の支援	評価（評価方法）
1. 前時までの学習を振り返り、「しましま」の音読をする。本時のめあてを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・「しましま」のチロで考えたチロの人物像を掲示し、その人物像と比べられるようにする。 ・前時までに見つけた、「しましま」のチロと似ているところについて伝え合うという活動を確認することを確認する。 	<p>「しましま」のチロと似ているところについて、叙述をもとに自分の考えをもって伝えている。（発言、ワークシート）</p>
<p>「しましま」のチロと似ているところをつたえあおう。</p>		
2. 「しましま」のチロと似ているところについて、グループで話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・聞き手は自分の考えと同じか、違うかの視点をもって聞くようにする。 ・全体で紹介したい、とくに似ているところを1つに絞る。その際、叙述をもとに話し合うようにする。 	
3. 全体で共有する。	<ul style="list-style-type: none"> ・共有することで、違う話でもチロの人物像は共通しているところがあることに気付けるようにする。 	
4. 本時のまとめ、振り返りをし、次時の確認をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・学習してわかったこと、思ったことをワークシートに書くようにする。 ・次時では、本時で考えたことを踏まえて、チロに手紙を書くということを確認する。 	

(3) 本時の評価

十分満足できると判断される児童の具体例	おおむね満足できると判断される児童の具体例	支援を必要とする児童への指導の手立て
<p>「しましま」のチロと似ているところについて、叙述をもとに伝え合ったことで、自分の思いや考えを高めている。</p>	<p>「しましま」のチロと似ているところについて、叙述をもとに自分の思いや考えをもって伝えている。</p>	<p>チロの様子がわかる叙述と一緒に探したり、グループの友達のことを聞いたりすることで、自分の思いや考えをもつことができるようにする。</p>

(4) 研究の視点

- ・課題は、児童が意欲的に取り組むのに適していたか。
- ・「「しましま」のチロと似ているところ」に焦点化して話し合ったことは、児童が主体的に話し合い、互いに思いや考えを高め合うのに有効であったか。